

Press Release

【報道関係各位】

**「家族どうしの安否確認」の 1 位は宮城県、「非常用持ち出し袋」の 1 位は静岡県、
都道府県で災害への備えに差異 ～マクロミル、全国 20 万人「都道府県別」防災調査ランキング～**

2024 年 8 月 28 日

株式会社マクロミル

(コード番号：3978 東証プライム)

株式会社マクロミル（本社：東京都港区、代表執行役社長 CEO：佐々木徹 以下、当社）は、全国 20 万人に実施した「災害や防災に関する調査」の結果から、都道府県別の防災意識に対する現在地を分析し発表しました。

今年に入り、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表や能登半島地震の発生など、災害に対する警戒が継続的に高まっています。分析結果から、災害への準備状況には都道府県ごとに差異があることが判明しました。主なトピックスと結果は以下の通りです。都道府県別の調査データは以下よりダウンロードが可能で、各自治体の危機管理・防災担当部門をはじめ広く活用いただけるよう普及を進めます。

https://www.macromill.com/wp-content/uploads/files/press/release/pdf/20240828_macromill.pdf

■ 調査結果 トピックス

1. 「家族どうしの安否確認」の準備ができている都道府県の 1 位は宮城県で 45.2%、最下位は島根県の 25.3%
2. 「非常用持ち出し袋」の準備ができている都道府県の 1 位は静岡県で 35.8%、最下位は沖縄県の 15.0%
3. 「携帯ラジオ」の準備ができている都道府県の 1 位は宮城県で 41.1%、最下位は島根県の 18.1%
4. 「災害時に頼ることができるご近所づきあい」の準備ができている都道府県の 1 位は山梨県で 31.0%、最下位は沖縄県の 16.2%
5. 「簡易／携帯トイレ」の準備ができている都道府県の 1 位は神奈川県で 30.8%、最下位は長崎県の 9.4% と 1 割に満たず

■ 調査結果

1. 「家族どうしの安否確認」の準備ができている都道府県の 1 位は宮城県で 45.2%、最下位は島根県の 25.3%

各自治体のホームページでは、災害時に家族や知人との間での安否の確認や避難場所の連絡等を取れるようにコミュニケーションの準備を呼びかけています。

都道府県別に「家族どうしの安否確認方法」の準備ができているランキング上位を見ると、1位は宮城県 45.2%、2位は熊本県 41.8%、3位は石川県 40.4%でした。一方下位は、1位は島根県 25.3%、2位は香川県 26.9%、3位の鳥取県と沖縄県は 27.6%でした。また、【図表 1】は赤色ほど準備・備えの比率が高く、青色は低いことを示しており、上位 3 県は大きな震災を経験した共通点があることがわかります。※スコアは「十分な準備ができています」「一定の準備ができています」の合計

家族どうしの安否確認方法の準備 都道府県ランキング

上位10

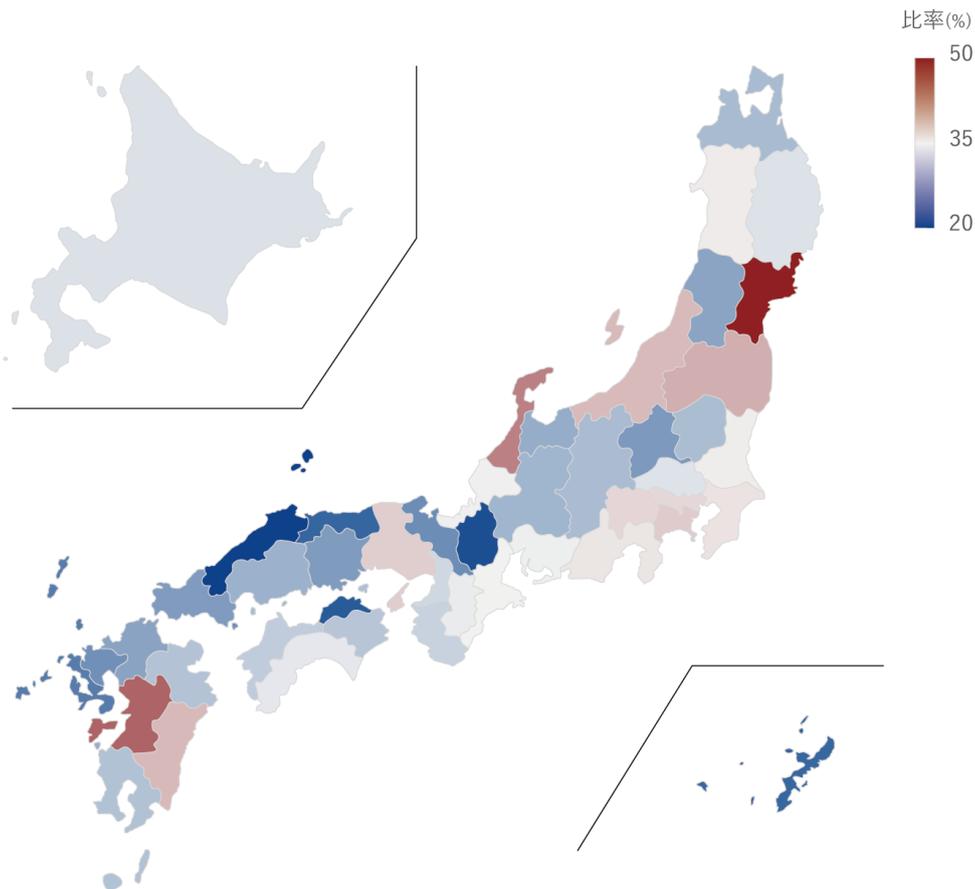
下位10

順位	都道府県	比率(%)	順位	都道府県	比率(%)
1	宮城県	45.2	1	島根県	25.3
2	熊本県	41.8	2	香川県	26.9
3	石川県	40.4	3	鳥取県	27.6
4	福島県	38.3	3	沖縄県	27.6
5	宮崎県	37.8	5	長崎県	28.9
6	新潟県	37.7	6	佐賀県	30.0
7	神奈川県	36.9	7	群馬県	30.5
7	兵庫県	36.9	8	岡山県	30.6
9	山梨県	36.5	8	山口県	30.6
10	東京都	36.4	10	福岡県	31.0

※スコアは小数点第2位で四捨五入し、順位は小数点第1位表示による

Q. 災害対策のため、あなたは家族どうしの安否確認方法の準備をしていますか？

回答者：200,000人／単一回答



【図表 1】 家族どうしの安否確認方法の準備状況

2.「非常用持ち出し袋」の準備ができている都道府県の1位は静岡県で35.8%、最下位は沖縄県の15.0%

自宅が被災したときは、安全な場所へ移動し避難生活を送ることになるため、「非常用持ち出し袋」の備えも大切です。都道府県別に「非常用持ち出し袋」の準備ができているランキング上位を見ると、1位は静岡県35.8%、2位は東京都35.6%、3位は神奈川県35.5%でした。一方下位は、1位は沖縄県15.0%、2位は島根県17.1%、3位の佐賀県は18.0%でした。また、【図表2】より、南海トラフのようなプレート境界に近い地域では「非常用持ち出し袋」の準備が高い傾向が明らかになりました。※スコアは「十分な準備ができている」「一定の準備ができている」の合計

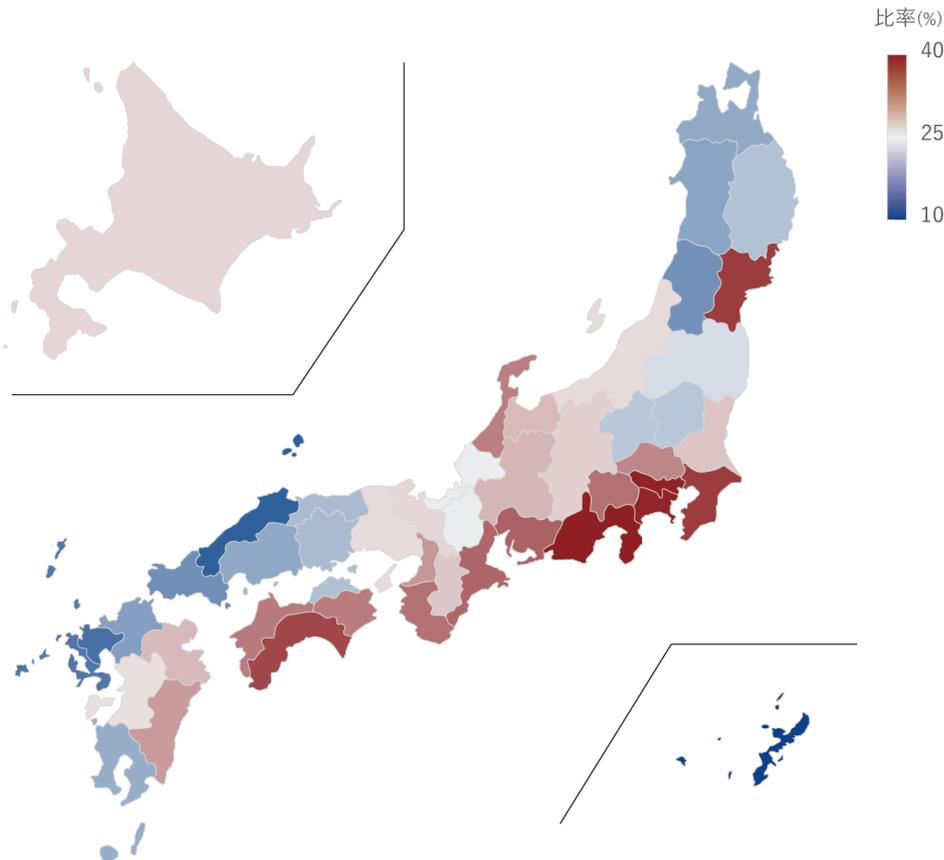
非常用持ち出し袋の準備 都道府県ランキング

上位10			下位10		
順位	都道府県	比率(%)	順位	都道府県	比率(%)
1	静岡県	35.8	1	沖縄県	15.0
2	東京都	35.6	2	島根県	17.1
3	神奈川県	35.5	3	佐賀県	18.0
4	千葉県	34.3	4	長崎県	18.4
4	宮城県	34.3	5	鳥取県	18.6
6	高知県	33.8	6	山口県	19.9
7	愛知県	32.4	7	山形県	20.1
8	三重県	32.2	8	福岡県	20.8
9	和歌山県	31.6	9	秋田県	21.1
9	山梨県	31.6	10	広島県	21.3

※スコアは小数点第2位で四捨五入し、順位は小数点第1位表示による

Q.災害対策のため、あなたは非常用持ち出し袋の準備をしていますか？

回答者：200,000人／単一回答



【図表2】非常用持ち出し袋の準備状況



3.「携帯ラジオ」の準備ができている都道府県の1位は宮城県で41.1%、最下位は島根県の18.1%

災害で停電すると情報を得る手段が限られるため、頼りになるのが「携帯ラジオ」です。都道府県別に「携帯ラジオ」の備蓄ができているランキング上位を見ると、1位は宮城県41.1%、2位は北海道40.3%と共に4割を超え、3位は神奈川県35.4%でした。一方下位は、1位は島根県18.1%、2位は滋賀県19.0%、3位は佐賀県19.3%と、下位3県は2割に満たない結果となりました。また、【図表3】より、2011年東日本大震災を経験した宮城県と、2018年北海道胆振東部地震の際に大停電を経験した北海道が特徴的です。

携帯ラジオ備蓄率 都道府県ランキング

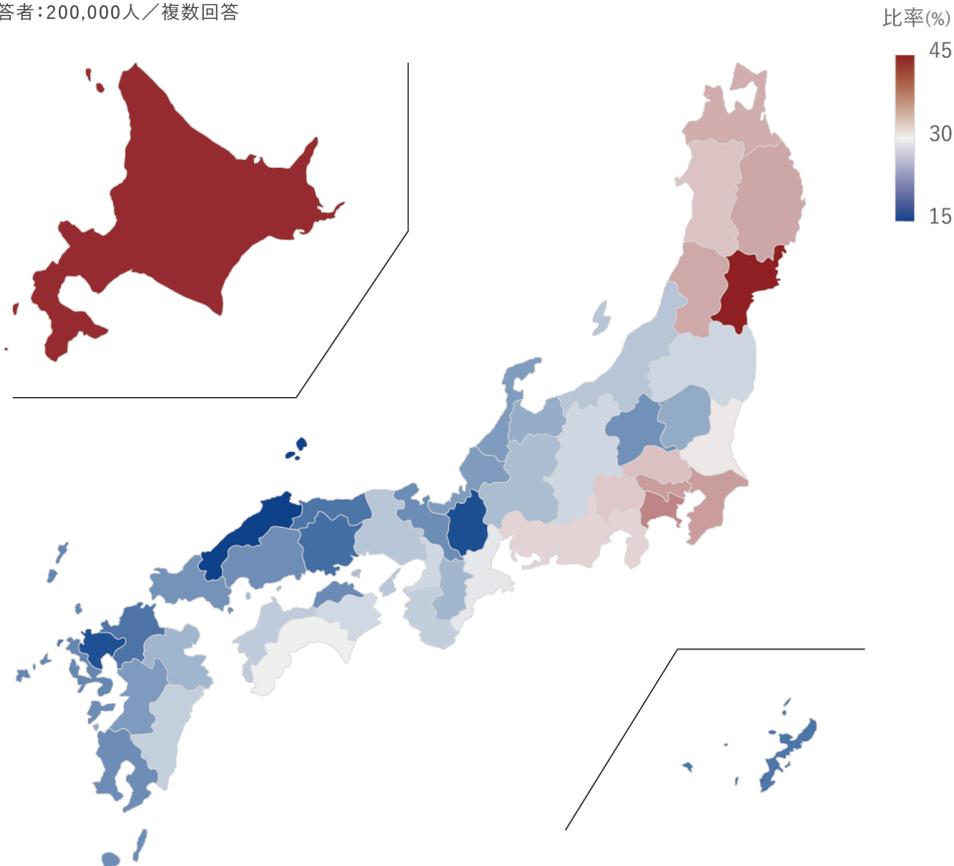
上位10			下位10		
順位	都道府県	比率(%)	順位	都道府県	比率(%)
1	宮城県	41.1	1	島根県	18.1
2	北海道	40.3	2	滋賀県	19.0
3	神奈川県	35.4	3	佐賀県	19.3
4	東京都	34.1	4	岡山県	21.3
4	千葉県	34.1	5	沖縄県	21.7
6	岩手県	33.6	5	鳥取県	21.7
7	山形県	33.4	7	福岡県	21.8
8	青森県	33.2	8	長崎県	23.0
9	埼玉県	32.2	9	香川県	23.3
10	秋田県	32.1	9	京都府	23.3

※スコアは小数点第2位で四捨五入し、順位は小数点第1位表示による

Q.災害対策のため、あなたの世帯で準備できているものは何ですか？

あてはまるものを全てお選びください。

回答者：200,000人／複数回答



【図表3】 災害対策における「携帯ラジオ」の準備状況

4.「災害時に頼ることができるご近所づきあい」の準備ができています都道府県の1位は山梨県で31.0%、最下位は沖縄県の16.2%

災害時は地域や町全体での連携や協力が不可欠です。こうした時に頼りになるのが近所の助け合いです。都道府県別に「ご近所づきあい」の準備ができていますランキング上位を見ると、1位は山梨県31.0%、2位は静岡県30.8%、3位は宮城県30.5%でした。一方下位は、1位は沖縄県16.2%、2位は福岡県19.8%、3位は香川県19.9%でした。※スコアは「十分な準備ができています」「一定の準備ができています」の合計

Q.災害対策のため、あなたのご近所づきあいの準備をしていますか？

回答者：200,000人／単一回答

ご近所づきあいの準備 都道府県ランキング

上位10

順位	都道府県	比率(%)
1	山梨県	31.0
2	静岡県	30.8
3	宮城県	30.5
4	熊本県	29.9
5	新潟県	28.0
6	長野県	27.8
7	山形県	27.7
8	岐阜県	27.3
9	奈良県	27.2
9	秋田県	27.2

下位10

順位	都道府県	比率(%)
1	沖縄県	16.2
2	福岡県	19.8
3	香川県	19.9
4	山口県	20.9
5	東京都	21.1
5	徳島県	21.1
7	高知県	21.5
8	大阪府	22.4
9	愛知県	22.5
10	北海道	22.6

※スコアは小数点第2位で四捨五入し、順位は小数点第1位表示による

【図表4】頼ることができるご近所づきあいの準備状況

5.「簡易／携帯トイレ」の準備ができています都道府県の1位は神奈川県で30.8%、最下位は長崎県の9.4%と1割に満たず

過去の大規模災害発生時、避難所での衛生管理が課題の一つになりました。そこで、都道府県別に「簡易／携帯トイレ」の準備ができています上位を見ると、1位は神奈川県30.8%、2位は東京都30.4%、3位は静岡県27.8%でした。一方下位は、1位は長崎県で9.4%、2位は沖縄県で9.6%、3位は島根県で10.5%でした。

Q.災害対策のため、あなたの世帯で準備できているものは何ですか？

あてはまるものを全てお選びください。

回答者：200,000人／複数回答

簡易／携帯用トイレ備蓄率 都道府県ランキング

上位10

順位	都道府県	比率(%)
1	神奈川県	30.8
2	東京都	30.4
3	静岡県	27.8
4	千葉県	27.1
5	埼玉県	24.8
5	愛知県	24.8
7	三重県	23.4
8	高知県	23.3
9	石川県	21.9
10	大阪府	21.8

下位10

順位	都道府県	比率(%)
1	長崎県	9.4
2	沖縄県	9.6
3	島根県	10.5
4	山形県	11.7
5	岩手県	12.1
6	秋田県	12.3
7	佐賀県	12.5
8	福島県	13.0
9	青森県	13.1
10	鹿児島県	13.5

※スコアは小数点第2位で四捨五入し、順位は小数点第1位表示による



【図表 5】 災害対策における「簡易／携帯トイレ」の準備状況

以上

関連リンク プレスリリース（2024年3月12日付）

マクロミル、能登半島地震の災害支援チャリティーアンケートを実施 ～全国 20 万人の回答結果から、防災におけるコミュニケーション等の課題が明るみに～ <https://www.macromill.com/press/release/20240312.html>

■ 調査概要

調査方法 : インターネットリサーチ
調査地域 : 全国
調査対象 : 全マクロミルモニタ会員
有効回答数 : 200,000 人
割付方法 : 割付なし（全数回収）
調査期間 : 2024年2月16日（金）～2024年2月17日（土）

■ データのご利用に関して

当記事の著作権は、株式会社マクロミルが保有します。当記事に掲載のデータを引用・転載される際は、必ず「マクロミル調べ」と出典を明記ください。また、引用・転載される際は、掲載先・掲載内容について以下問合せ先までご一報ください。

■ 株式会社マクロミルについて

マクロミルは、国内オンラインリサーチ業界のリーディングカンパニーです。市場シェア No.1^{*}の豊富なリサーチ実績とノウハウ、90 以上の国と地域で 1.3 億人へのリサーチが可能なグローバルネットワーク、独自に構築した消費者パネルから得られる多種多様なデータを活用し、お客様のマーケティング課題の解決に向けて最適なソリューションを提供します。創業時から育んできたデータネイティブな発想で、お客様のビジネスに成功をもたらす Data Culture 構築の原動力となることを目指します。

※オンラインリサーチ市場シェア=当社単体及び（株）電通マクロミルサイト、QO 株式会社のオンラインリサーチに係る売上高（2023年6月期）÷一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会（JMRA）によって推計された日本のMR業界市場規模・アドホック調査のうちインターネット調査分（2022年分）（出典：一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会（JMRA）2023年6月27日付第48回経営業務実態調査

【株式会社マクロミル 会社概要】

代表者 : 代表執行役社長 CEO 佐々木徹
本社 : 東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー 11F
設立 : 2000年1月31日
事業内容 : マーケティングリサーチおよびデジタル・マーケティング・ソリューションの提供
売上高 : 40,616 百万円（2023年6月期）
URL : <https://www.macromill.com>

－ 本件に関するお問い合わせ先 －

株式会社マクロミル 広報・ブランドマネジメント部 広報ユニット 井上・飯尾
TEL : 03-6716-0707 MAIL: press@macromill.com
URL: <https://www.macromill.com>